

平成27年度 弘前市総合計画審議会議事概要 (第3回)				
日 時	平成27年9月25日 (金) 10時00分～12時00分			
場 所	弘前市役所 2階 特別会議室	傍聴者	0人	
出席者	委員 (13人)	森会長、村松委員、生島委員、阿部委員、中村委員、島委員、清野委員、工藤委員、北村委員、鈴木委員、山形委員、山本委員、三上委員		
	事務局 (6人)	ひろさき未来戦略研究センター副所長、ひろさき未来戦略研究センター総括主幹、ひろさき未来戦略研究センター主査、ひろさき未来戦略研究センター主事		
	その他			
会 議 概 要				
1 開会				
2 議事 弘前市経営計画の進捗にかかる二次評価 (案) について				
○主な質疑等の内容は以下のとおり。				
【ひとつづくり】				
①保育サービスの拡充				
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て支援新システムの実施開始に伴い、幼保連携型認定こども園が増えつつある。行政においても、福祉部局と教育委員会の組織の一本化を図る必要がある。 ・保育サービスの拡充について、児童館、なかよし会等の必要性は高い。少子化といえども、夫婦共働き家庭は増加しており、利用者は増えているため、その充実を今後も図っていく必要がある。市がこれまで対応してきたことについては、保護者からも評価されているので、施設の人員配置も含めて、今後もその体制を維持して欲しい。 				
②豊かな情操と夢を育む事業の展開				
<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業について、引き換え率が低いことが課題なのではなく、母子保健との連携や、子育て支援、親教育を含めて実施していくが課題なので、関係する部局との連携を意識して取り組んで欲しい。 				
③生涯学習推進体制の充実				
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習と社会教育の目的は異なっており、別物である。生涯学習と社会教育を一つにしてしまうと、誤った考え方になってしまうので、誤った方向にならないように取り組んで欲しい。 				

- ・現在の弘前市は、市長部局の中で生涯学習に取り組む体制ではないが、支援体制をどうするか、職員をどう配置するか、あるいは、どのようにシステムを作っていくかを考えていくことが、結果として個人の生涯学習に繋がっていく。
- ・この経営計画は、子どもたちの笑顔あふれるひろさきを目指す、ということが基本となっている。国の縦割りが問題となっている話で、横の連携を図ることが大事であって、縦割りの現状を解消しなければならない。

④文化・芸術活動の推進

- ・資源配分方針は「縮小」となっているが、先人たちが築いてきた当市の芸術・文化をさらに高めていくためには、縮小といえども、そのレベルを維持する考え方で取り組みを進めて欲しい。

⑤スポーツ・レクリエーション活動の推進

- ・スポーツ少年団に入りたくても入れない子どもが相当数いる。夫婦共働きが増えてくると、子どものためにスポーツ少年団に入れてやりたくてもできないこともあり、親への支援も必要となってくる。今後、スポーツ・レクリエーション活動の推進を考えるとときには、子どもの親への支援体制も考えて欲しい。
- ・スポーツ少年団に関して、地域によっては野球チームを作れなくなっているところもある。今後も人口減少が進むことが想定されるので、子どもに資源を振り向けて取り組んでいって欲しい。

(ひとづくり全般)

- ・ひとづくりについては、連携という話もあったが、婚活であれば出会いの場だけを用意しても仕事で参加できなければ働き方の問題もあるので、その辺の横のつながりも考えて取り組みを進めて欲しい。

【なりわいづくり】

①りんご以外の主要農産物の生産力の強化

- ・将来的に就農の可能性の高い人材を持つ農業高校や大学との連携も考えながら進めることも効果的である。
- ・米について、弘前地域は県内でも、特に良質なコメができる地域。しかし、りんごへの力の配分が強く、コメ農家に対する支援が遅れている。弘前市として、米に対するPRを推進し、米農家の所得向上に向けて取り組む必要がある。
- ・大規模農家への支援が主になっていると思うが、兼業農家も多い。実際に、小規模農家に対する支援が少ないのが現状なので、小規模農家が意欲的に農業に取り組むためにも支援する必要がある。
- ・農業が基幹産業の都市として、経営計画だけでは農林業振興に資する具体的な施策が薄い。林業も含めた個別の農林業振興計画を策定し、その中で具体的な生産性向上の施策を定め、取り組んでいく必要がある。

②弘前らしい魅力ある観光コンテンツの企画推進

- ・弘前感交劇場の取り組みは、他の地域からもうらやましがられる取り組みである。その考え方が、市民に浸透・定着していないというのであれば、そのあり方と官民一体となって考えていく必要がある。

③滞在型・通年観光の推進

- ・観光面において、弘前市の最大の弱点は通過型観光であるということ。既存の公共施設(ロマンピアなど)を活用するなどして、宿泊客数を増加させる取り組みも検討してはどうか。

④観光ホスピタリティの向上

- ・観光客を受け入れるお店のサービス向上の質の向上、生産性の向上など、インバンドを考えたときに観光地であれば当たり前となる基本的なサービスの向上も検討すべきである。